

彦根市総合計画 Hikone City



令和4年(2022年)3月

彦根市

彦根の未来（めざすまちの姿）

歴史と文化を紡ぎ、未来を創造する、市民一人ひとりが輝くまち彦根

多様性を認め合い、受け入れ、互いに尊重し合って、つながり支え合うまち、だれもがその人らしくいきいきと生活できるまち、市民一人ひとりが輝くまちをめざします。

少子高齢化がますます進む中、
これからの彦根市の未来を創っていく子ども・若者が
自分らしく輝き、学び躍動していくまちをめざします。

先人から受け継がれてきた、彦根市が誇る歴史・文化を未来へつなぐとともに、彦根市ならではの可能性(彦根城世界遺産登録、データサイエンス*都市)を見出し、生かしながら、新たな産業の展開を進め、にぎわいと特色ある産業が育つまちをめざします。

彦根市の魅力である豊かな自然環境と共生し、安全・安心で、だれもが快適に暮らすことができるまちをめざします。

「めざすまちの姿」をみんなで共有し、
市民・事業者・職員などまちに関わる主体が
ともに、“オール彦根”で実現します。

※データサイエンス：データに関する総合的な学術分野を指し、データを基にして情報科学、統計などのアプローチから有益な知見やビジネス上の利益をもたらすもの。

令和2年(2020年)国勢調査

113,647 人

令和15年(2033年)目標

114,000 人

めざすまちの姿

まちづくりの方向性

- 1 だれもがその人らしくいきいきと暮らし、つながり支え合うまち
- 2 子ども・若者が自分らしく輝き、学び躍動するまち
- 3 歴史・文化を生かし、にぎわいと特色ある産業が育つまち
- 4 豊かな自然と共生し、安全・安心で快適なまち

政策推進のための取組

SDGs(持続可能な開発目標)を踏まえて取り組みます。

SDGs（持続可能な開発目標）とは

令和12年(2030年)までの国際目標で17のゴールと169のターゲットが示されています。「だれ一人取り残さない」持続可能で多様性と包摂性※のある社会の実現を基本理念としています。

※包摂性：だれも排除することなく社会の一員として参加できること、すべての人を包み込むこと。

SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



12年後

こんなまちをめざそう

だれもがその人らしくいきいきと暮らし、つながり支え合うまち

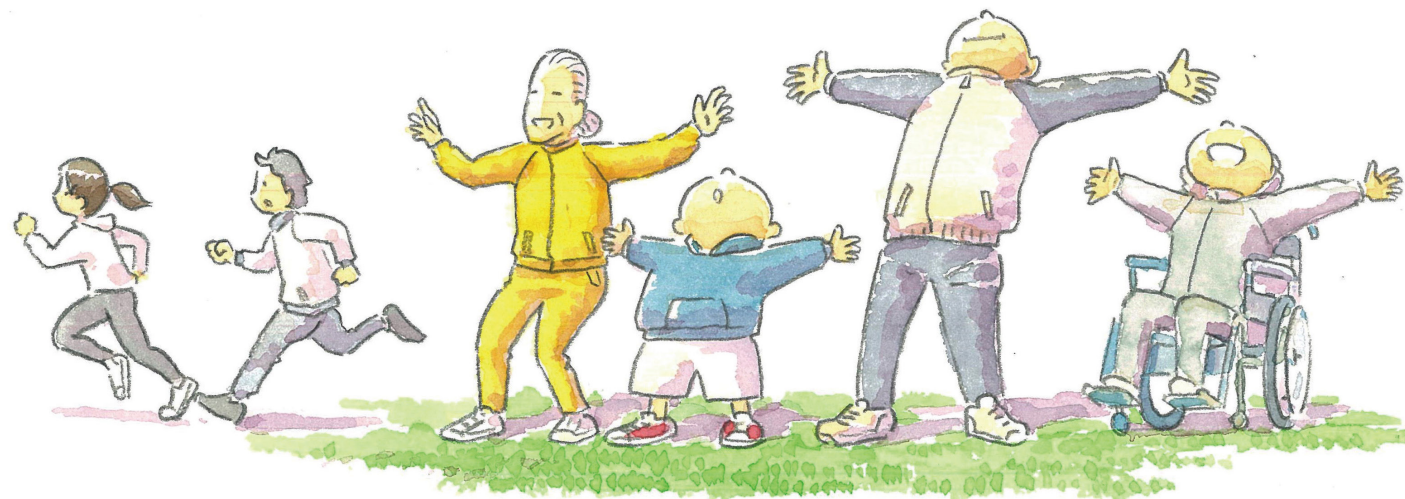
まちづくりの方向性 その1

人権 多文化共生 健康
福祉 医療 生涯学習



それぞれの施策の詳細は
前期基本計画の P1 ～ P29
をご覧ください。

あらゆる人が
それぞれの個性や生き方を
互いに認め合い、
ともに支え合っています。



みんなで健康づくりに取り組み、
住み慣れた地域で、医療や福祉が受けられ、
心地よく暮らし続けられています。

市民一人ひとりが
多様な価値観を認め合いながら
地域活動やボランティア活動に参加し、
いきいきと輝き活躍しています。



子どもから大人まで、市民一人ひとりが
自分から進んで学び続け、
学んだ成果を地域で生かしています。

海外との交流が一層進み、
若者をはじめ、
市民のお互いへの理解が
進んでいます。

◆こんなまちにするための取組

- あらゆる場面で人権教育・人権啓発を推進
- 出前講座等で男女共同参画の推進を支援
- 外国人住民へのコミュニケーション支援
- 姉妹(友好)都市等との国際的な交流事業の推進
- みんなで取り組む生活習慣病予防
- 高齢者や障害のある人を身近で見守り
支える体制づくり
- 在宅医療・救急医療の充実
- 図書館施設の整備・維持補修の推進
など

12年後

こんなまちをめざそう

子ども・若者が自分らしく輝き、学び躍動するまち

まちづくりの方向性 その2

子育て 次世代育成 教育



それぞれの施策の詳細は
前期基本計画の P31 ~ P51
をご覧ください。

親同士の交流や地域の人との交流の場など、
地域で子どもが成長する環境が充実し、
だれもが安心して子育てできます。

子ども一人ひとりに合った
教育・保育サービスが
希望に応じて受けられます。



大学生や高校生が
地域の人と活発に交流し、
地域活動で活躍しています。

ICT*や先端技術を使った
多様な学びを通じて、
児童・生徒は、
「生きる力」としての
「総合的な学力」を
身につけています。



若者が増え、まちが活力とにぎわいに
あふれています。

◆ こんなまちにするための取組

- 多様なニーズに対応できる子育て支援の充実
 - 保育施設の整備と保育人材の確保
 - 「学ぶ力」の向上と学校施設や教育機器の充実
 - 子どもたちの地域での体験活動の推進
 - 大学などの高等教育機関や高等学校との連携の強化
 - 情報発信など移住促進の強化
 - 市内大学卒業生の市内への定住促進
 - 結婚の支援
- など

※ICT：「Information and Communication Technology」の略語で、情報コミュニケーション技術、情報通信技術を指す。

12年後

こんなまちをめざそう

まちづくりの方向性 その3

歴史・文化を生かし、にぎわいと特色ある産業が育つまち

歴史 伝統 文化
観光 スポーツ 産業



それぞれの施策の詳細は
前期基本計画の P53 ~ P85
をご覧ください。

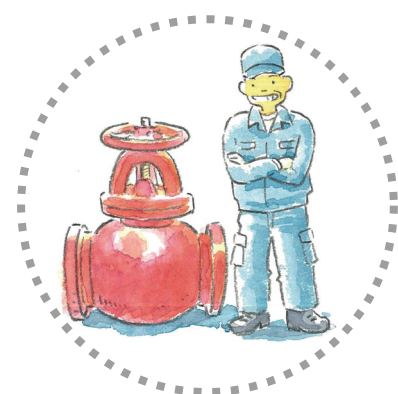
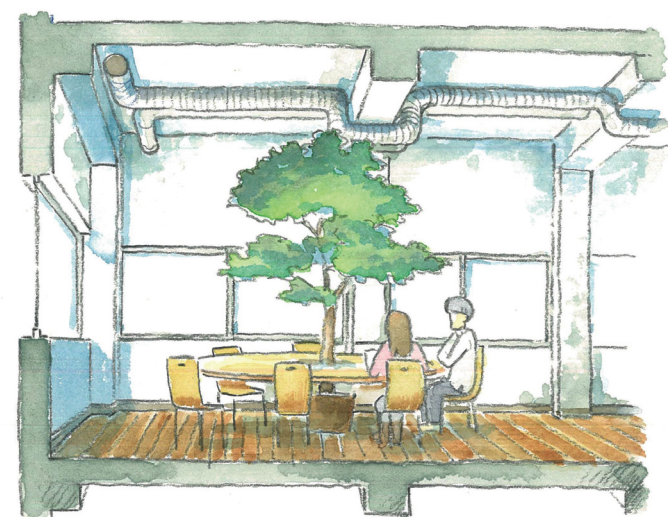
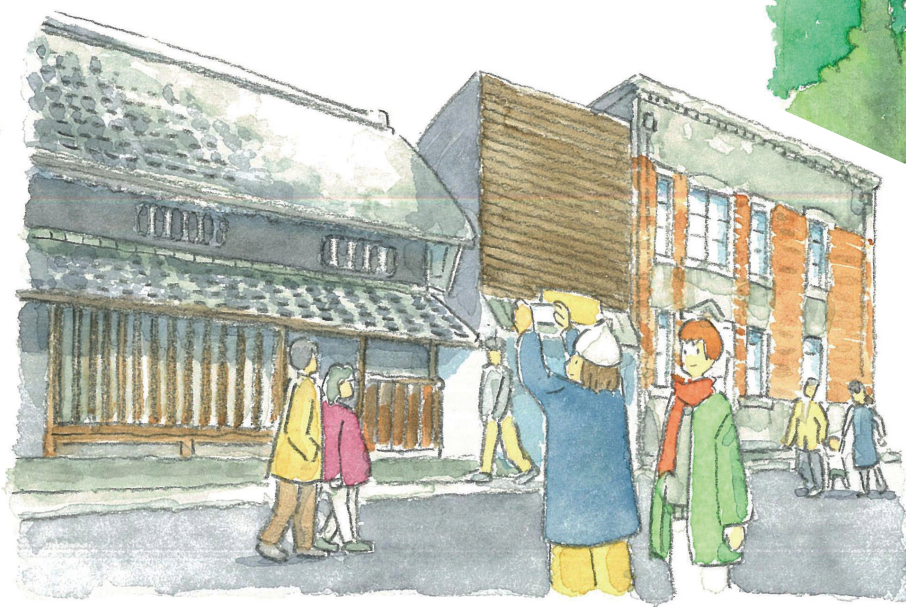
伝統文化が息づくまちで、子どもの時から、創作活動や音楽・芸術などに親しむことができ、“彦根らしい”文化が創出されています。

彦根城が世界遺産に登録され、市民が力を合わせて歴史や文化財を守り生かし、観光客と市民、どちらにとっても魅力的でにぎわいのあるまちになっています。



いつでも、どこでも、何歳になっても、身近でスポーツができ、観戦や応援なども楽しめます。

彦根ならではの特色のある産業が育っています。彦根に移り住み、新しい事業を始める人も増えています。



いろいろな働き方や生き方が選べ、自分のやりたいことができる時間のある豊かな生活をしています。

◆こんなまちにするための取組

- 彦根城の世界遺産登録の推進
- 文化財などの保存・活用
- 文化財に親しめる機会の充実
- 市民・事業者・大学・関係団体等が力を合わせて景観まちづくり活動を推進
- 文化祭の開催など、市民の文化芸術活動への支援
- 戦略的な観光プロモーションの展開
- スポーツツーリズム*やeスポーツ*の推進
- 農林水産業や地場産業など特色ある産業の振興
- 創業支援やシェアオフィス*の整備
- 雇用環境の充実

など

※スポーツツーリズム：スポーツを「観る」、「する」ための旅行および周辺地域観光や、スポーツを「支える」人々との交流や地域連携などスポーツに関わる旅行。
※eスポーツ：「エレクトロニック・スポーツ(Electronic Sports)」の略語で、コンピューターゲーム、ビデオゲームを使った対戦をスポーツ競技として捉える際の名称。
※シェアオフィス：複数の利用者によって共有する仕事場。

12年後

こんなまちをめざそう

豊かな自然と共生し、安全・安心で快適なまち

それぞれの施策の詳細は
前期基本計画の P87 ～ P131
をご覧ください。

まちづくりの方向性 その4

環境形成

都市基盤

安全・安心



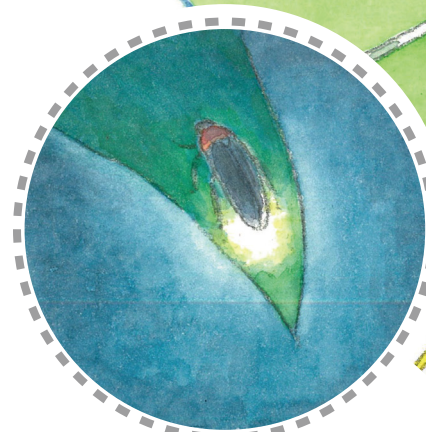
道路や河川などの整備や維持管理により
災害への対策が進み、防災訓練などを通じて、
地域や市民の災害への備えも進んでいます。



犯罪や交通事故が減り、
子どもから高齢者まで
安全で安心して
生活しています。



エネルギーの使用が少ない機器の利用や
ごみの減量・リサイクルが進み、
エコな生活を送っています。



豊かな自然の保全・美化活動が積極的に行われ、
琵琶湖、山、川などが地域の住民や観光客に
親しまれています。



空き家の有効活用や安心して住める住宅、
緑豊かな公園緑地などが整備され、
だれもが快適で住みやすいまちに
なっています。



予約型乗合タクシーが
日常の移動手段になり、
鉄道や自動運転車なども使い、
だれもが自由に移動できます。

◆こんなまちにするための取組

- 官民連携で「居心地が良く歩きたくなるまちなか」づくり
 - 予約型乗合タクシーの運行、WEB予約やキャッシュレス決済*の導入
 - 自然観察会など自然と触れ合う機会の創出
 - 節電や節水などの環境に配慮した行動やごみ減量の促進
 - 空き家の活用などの対策や安全な住まいづくり
 - 上下水道、道路や公園緑地などの維持管理・充実
 - 防災講習会や防災訓練などの開催、非常用備蓄品の準備など自助・共助の促進
 - 防犯パトロール活動や通学見守り活動など地域安全活動の推進
- など

*キャッシュレス決済：紙幣・硬貨といった現金を使用せず、クレジットカードや電子マネー、口座振替などを利用して決済する仕組み。

12年後

こんなまちをめざそう

政策推進のための取組

それぞれの施策の詳細は

前期基本計画の P133 ～ P153 をご覧ください。

まちづくりの方向性 その5

市民協働

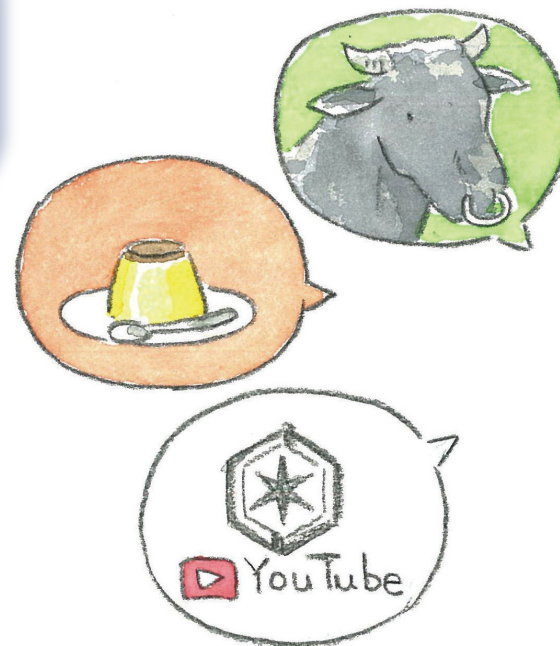
地域コミュニティ

行財政基盤

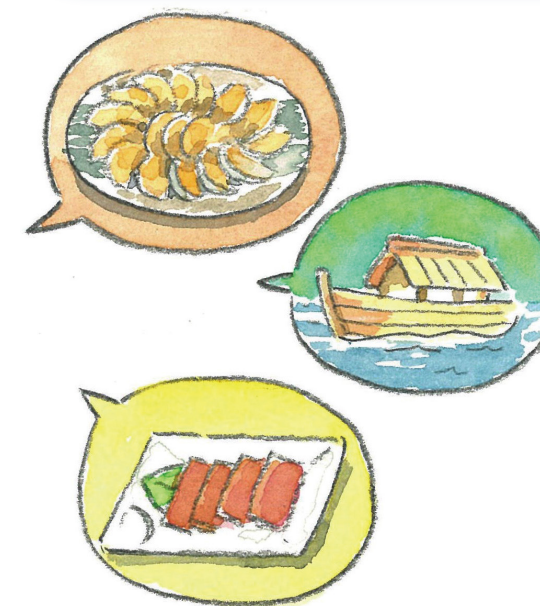


スマートフォンなどから
市の情報を知ったり、手続きができ、
市民も彦根のことを世界に発信しています。

地域のことを住民同士が
一緒になって考え、
地域活動に取り組んでいます。



観光や仕事・学校などで訪れる人だけでなく、
ふるさと納税や配信動画を楽しむ人など、
彦根市に関わる人が多くなっています。



湖東圏域の市町が協力し合い、
広域の地域全体で活性化しています。

◆こんなまちにするための取組

- ホームページ、SNS※、動画配信サービスなどによる情報発信
- 市民も彦根の魅力を発信
- 自治会等のコミュニティ活動やボランティア活動などまちづくりに参加
- ふるさと納税の返礼品の拡充やPRの強化
- いろいろな取組で近隣市町などと連携を推進
- 市の業務の自動化・効率化
- 行政のデジタル化の推進

など

※SNS：「Social Networking Service」の略語で、個人同士のつながりや、個人と企業などの団体とのつながりを促進・サポートするインターネット上のサービス。

総合計画とは

彦根市のめざす将来の姿を描き、それを実現するために取り組むことをまとめたもので、彦根市のまちづくりを進めていく上で、最も基本となるものです。

この計画に基づいて、彦根市民が暮らしやすいまちをつくるためのいろいろな取組を進めます。

総合計画には「基本構想」と「基本計画」があります。



彦根で暮らす人・学ぶ人・仕事をする人など
彦根に関わる人みんなで将来の姿を共有し
一緒に力を合わせて取り組みましょう。

彦根市に関わるいろいろな人の力を合わせてつくった計画です

市民意識調査(アンケート調査)や彦根市で様々な活動をする団体へのヒアリング、彦根市役所の若手職員のワークショップ(話し合い)を行い、彦根市のまちづくりについての意見を集めました。その意見を参考に、市役所内での検討委員会での話し合い、市民・関係団体・専門家など彦根市に関わる様々な人が参加する総合計画審議会で話し合いを重ね、意見をまとめました。また、できた計画案について、意見公募(パブリックコメント)を行い、その意見も踏まえて修正し、市議会で議決された計画です。

まちづくりについての意見を集めました

●市民意識調査

一般市民、小学生、外国人住民の方からのご意見を集めました。

●関係団体ヒアリング

市内で活動する団体の方からのご意見を集めました。

●若手職員ワークショップ

これからのまちづくりを推進する職員で意見を出し合いました。

案について意見公募を行いました

●パブリックコメント

市役所内の様々な部署が力を合わせて話し合い、とりまとめました

庁内検討委員会

令和元年(2019年)7月から令和4年(2022年)1月にかけて、全7回の会議を実施



総合計画審議会

令和元年(2019年)10月から令和3年(2021年)11月にかけて、全体会議8回、4つの部会に分かれて各部会会議4回、合同部会会議1回、各部会の調整を行う調整会議2回を実施

- 令和元年10月11日 第1回全体会議
- 令和2年 8月21日 第2回全体会議
- 令和2年 10月23日 第3回全体会議
- 令和2年 11月26日 第4回全体会議
- 令和3年 3月23日 第5回全体会議

□第1～4部会

第1回 令和3年4月22日～28日

第2回 令和3年5月24日～6月2日

◇第1回調整会議 令和3年5月28日

第3回 令和3年6月29日～7月1日

第4回 令和3年7月21日～30日

◇第2回調整会議 令和3年8月19日

○令和3年 9月 3日 第6回全体会議

□第3・第4合同部会 令和3年9月30日

○令和3年10月21日 第7回全体会議

○令和3年11月 9日 第8回全体会議

答申

令和3年11月25日